

ギャラリー

10万人の

茂呂にお住まいの伊藤さんの作品「シャドーボックス」を紹介します。シャドーボックスは、17〜18世紀にかけてヨーロッパで広まったといわれています。これは紙や布、写真に描かれた絵を5〜8枚プリントし、パーツごとに丁寧に切り抜き、シリコンを使って重ねて、立体感を



伊藤しづえさんの作品
「まぎばの風景」

画面寸法縦270cm×横245cm

持たせた奥行きのある作品に仕上げていくものです。この作品の木、葉、動物などすべて紙を何枚も重ねて立体感を持たせています。細かい仕事が大好きな伊藤さんは子育てが終わり、長年勤めた会社も退職したときから昔からの念願だった作品制作に取り組んできました。作品を制作する上で苦労することはと訊ねると「年齢とともに、細かいものをハサミやカッターで切る作業が苦労するところかな、それを見ている主人は感心しています」と楽しそうに話してくれました。

★作品募集★

10万人のギャラリーの作品を募集しています。絵画、工芸、木版画などみなさんの力作をお寄せください。問い合わせ先 広報広聴係

0289-212108

作品介绍⑪

川上澄生の世界

この作品には、ひじ鉄のポーズをとる女性と、まっ逆さまに落ちる花束が象徴的に描かれています。シンプルな構図の中にも、様々な想像力がかきたてられます。例えば、次のようなストーリーはいかがでしょうか。とある貴婦人に恋心を抱いた男性が、勇気を出して花束を差し出し、告白しました。すると女性は、告白を受け入れるどころか、花束にひじ鉄をくらしめました。辺りの空気は一瞬にして固まり、女性の動きや花束の落下する空気の揺れを感じて、地面の草もなびいています。この作品は、まさにこうした瞬間を捉えています。花束の向こう側にいるであろう男性の、あつけにやられ、言葉も出ない様子が伝わってきます。



(本作品は市制60周年記念「川上澄生 ユーモアの世界」展に出品しています)

学芸員 白井佐知子

川上澄生美術館からのお知らせ

問い合わせ 0289-212108

〈特別展示〉

川上澄生の代表作《初夏の風》を6月1日(日)まで、2階展示室で展示しています。

〈同時開催〉

1階展示ホール(入場無料)で、「地域の作家 松原 満里子・村田 恵子」展を開催中です。

「ひじ鉄」

1940年(昭和15年)

木版多色刷

(画面寸法縦240cm×横164cm)